

地域産業復旧復興支援事業 宮城県商工会議所連合会(宮城県)



「スーパーマーケットトレードショーへの出展」

【事業目的】

東日本大震災の直接的影響並びに、風評被害により、生産再開時の販路先を喪失した被災事業者のため、全国の流通バイヤーが一堂に会する国内最大規模の商談会「スーパーマーケットトレードショー」に宮城県商工会議所連合会としてブースを出展し、当所がこれまで取り組んできた「伊達な商談会」のPRと被災3県の物産を展示・紹介することで、販路の回復・拡大を支援するもの。

【事業実施状況・成果】

「スーパーマーケットトレードショー」
実施日：平成26年2月12日～14日
場 所：東京ビッグサイト

3日間で、延べ8万人の来場者を数える展示商談会にブースを設け、被災3県で生産されている、食品加工品や工芸品58点と、各地の商品カタログを展示した。

また、平成25年4月より当所が実施してきた「伊達な商談会」の取り組みを紹介するとともに、来場された流通バイヤーに対し、被災地商品の買い付けを呼びかけ、日本酒の展示や宮城米（200g×600袋）のサンプル配布による風評の払拭を行った。

ブースには3日間で約130名の流通関係者が関心を寄せて訪れ、うち約30名には、当所コーディネーターと職員が、バイヤーの招聘の依頼を行った。

【今後予想される事業効果】

本展示商談会を通じて、接点を持つことが出来た、全国のバイヤー・飲食店関係者らに対し、震災3年を迎える被災地の実情を理解して頂き、今後、宮城県内での開催を予定している個別商談会に、支援バイヤーとして参加して頂けるよう依頼。名刺交換や、情報提供を行った来場関係者に対しては、平成26年度の招聘バイヤー対象者として、引き続き招聘を継続していくこととしている。

被災3県の小規模事業所は、商品供給力も十分でないことから、百貨店や商社以外にも、様々なジャンルのバイヤーを必要とするため、こうした大規模展示会におけるバイヤー招聘は今後も復興支援活動に不可欠な事業と位置付けている。